

某小学校雨漏り修繕工事



1. 工事概要

・漏水診断

エダ式工法「特許 1339367号」CO₂ガス圧入による検知システム
スラブ漏水跡クラック部分へ診断用ガス(CO₂送入装置)を設置し、同所からその水みちに対し雨水の侵透圧とされる0.06～0.15MPaの圧力でCO₂ガスを圧送した後、屋上で漏水の原因と推定さるる部位についてCO₂検知機(高感度ガス検知機)により測定した。

・漏水補修

コンクリートに発生したクラック及び

各種防水層の不具合に起因する漏水補修に用いる注入工法

2. 漏水箇所



3. 漏水診断



ガス注入器



ガス検知器



ガス診断中



ガス検知箇所

4. 漏水診断結果

検知箇所

屋上防水のドレンとシート防水との取合い部分



5. 漏水補修



足踏み注入器



防水接着剤トマルE

新築当初の防水層はアスファルト防水ですが、EXP.Jの改修工事時に、アスファルト防水層を破断している。その部分が今回の雨漏れの出口となっていた。

屋上防水層は、新築時のアスファルト防水の上にシンダーコンクリートが打設されていて、その上に現在のシート防水が施工されている。

今回の雨漏れ箇所から、水が出てくると言うことは、シート防水のドレン廻りから、浸入した雨水がアスファルト防水の上を通りEXP.Jの小口部分から給食室の天井に落ちてきたと思われる。



ガス検知箇所よりトマルE噴出